

牧場の桜

昭和20～30年代、鹿児島・熊本からも花見客が押し寄せ、牧場の桜は大変なにぎわいを見せました。

さくらのトンネルの両側には露店が並び、立派な食堂も仮設されました。



「琉球踊」年月日不詳、牧場の演芸場

農村の風景

昭和24・25年当時、人力に頼っている農家が709戸（全体の14.5%）ありました。

作業はまだまだ人手や牛馬で行われており、農耕作業が機械化されるのは昭和20年代後半から30年代前半。動力耕運機が急速に普及したことで、農耕作業から牛馬の姿が消えていきました。



「帰り支度」(昭和36年6月4日)



「花見風景」年月日不詳、牧場

花見は年に一度とばかり、古いも若きも花が咲くと浮々となるものである。(中略) つい調子に乗り酔いつぶれる者、その酔っ払いを相手にいくばくかを稼ぐ者など、花を見る人にはいろいろある。(大山氏裏書より)



「山村の童女」(年不詳) 6月22日

町の子と違って、山村の子は整備された遊び場も遊び道具もないようである。丸太によってわずかに変化を求めて乗ったり飛び降りたりして遊んでいる姿は、気の毒にも、またいじらしくもあった。(大山氏裏書より)



写真で振り返る 昭和30年代の小林

この度、政策研究大学院大学の大山達雄名誉教授から昭和30年代の小林を写した貴重な写真を多数寄贈いただきました。

写真は大山教授の父である大山仁氏が小林市に在住していた際に、趣味のカメラで撮影したものです。昭和30年代の小林の人、風景、生活の様子をお楽しみください。

「顔、顔」(年不詳) 6月22日

豊年感謝祭(秋まつり)

昭和33年～38年は「豊年感謝祭」という呼び名だった「こばやし秋まつり」。

午前には五穀豊穡を祈る神事が行われ、午後にご神幸を先頭に、市内小中学校のブラスバンドやみこし、稚児行列、各事業所・団体の仮装行列などがつづきます。



「無題」年月日不詳



「狸の親子」昭和34年11月25日



「ワッ五千人札」昭和34年11月25日、豊年感謝祭



「無題」年月日不詳



「無題」年月日不詳



「農繁期の子どもたち」昭和36年8月10日



「スケッチ風景」(年不詳) 8月10日、本町交差点付近



「どんなんもんだい」昭和34年2月1日、市内製材所



「山羊と共に」(年不詳) 6月16日